

# 大障教ニュース

大阪府立障害児  
学校教職員組合  
大阪市天王寺区  
東高津町7 11  
府教育会館704号  
(TEL)6765-8904  
(FAX)6765-8905

# 大阪府人事委員会、4年連続で ボーナス引き上げを勧告

## 勧告不実施の府当局を厳しく批判

### 初任給の改善も勧告

10月17日、大阪府人事委員会は知事と府議会に対し、「職員の給与等に関する報告及び勧告」を行いました。その内容は今年4月時点で比較して、職員給与は民間を230円(0.06%)下回っているとして、職員の採用環境が厳しい状況にあることを鑑み、初任給を2千円引上げるなど若年層の給与引上げ、特別給ボーナスについては0.1月引上げて年間4.4月分支給とし、いずれも今年の4月に遡って実施するよう勧告しています。

昨年大阪府人事委員会は、民間との賃金比較方法を変更し、不当にも月例給の引下げ勧告を行いました。今年は昨年と同様の比較方法を使ったものの、これまでの私たちの要求と運動を一定反映した勧告と意見が、府当局に対して示される形となりました。

#### 【報告および勧告のポイント】

- ・月例給  
本年4月分の職員給与は、民間を230円(0.06%)下回っている。この較差等を踏まえ、職員給与を次のとおり改定給料表に定める給料月額を引上げ  
初任給2000円引上げるなど、若年層に限定した改定医師に対する初任給調整手当を引上げ(較差外)  
再任用職員に対し単身赴任手当を支給(格差外)
- ・特別給(ボーナス)  
年間0.1月分引上げ(年間4.3月分 年間4.4月分)  
民間の状況を踏まえ勤勉手当に配分
- ・改定期期  
2017年4月1日に遡って改定。ただし、再任用職員の単身赴任手当については、2018年4月1日から改定。

#### 4年連続で勧告を守らなかった大阪府当局

府当局は団体交渉の場では、人事委員会勧告は労働基本権剥奪の代償措置であり、基本的には尊重すべきものとの考えを繰り返して述べてきました。しかし2016年度は、府人事委員会の不当な賃下げ勧告を受け、2016年4月に遡った賃下げを強行しました。一度支払った賃金を、後から取り上げるといふ前代未聞の暴挙と言えます。

2015年度には、「給料月額を概ね2200円引上げ」としていた府人勧に基づき賃上げを、全国の自治体で唯一見送りしました。さらに、2014年度には賃金の2%引下げを経過措置無しで実施し、2013年度には4月に遡るべき月例給の引き上げを、8カ月分値切りしました。

府人事委員会は、知事と府議会に対する意見の中で、本来あるべき社会一般の情勢に適応したものは言い難い状況に置かれてきたと断言し、「こうした府当局の姿勢を厳しく批判しました。その上で、職員給与は義務的経費であり、危機的な状況にない限り、厳しい財政状況下においても、予算上適切に措置される必要がある」と述べています。

#### 長時間勤務解消の実効性ある対策を

府立学校については、時間外在校時間の実態は依然として深刻とし、「実効性ある取組みを強力に進めていく必要がある」「学校現場との真摯な意思疎通を図り、長時間の愛情把握に努めることが重要」と指摘しています。また、産・育休代替講師等について、配置が遅れ、欠員が長期化しないよう「教育委員会に必要な支援を求めています。」

「今後の人事行政のあり方については、職員のやる気、やりがいの喚起が求められる」とし、「職員全員参加型の組織機構が不可欠」と述べています。

#### 生活改善につながる賃上げの実現を!

今回の府人事委員会の報告及び勧告は、私たちの生活改善には程遠いものの、大阪府当局が進めてきた賃金抑制やトップダウンの府政運営等が、府職員、教職員のやる気を低下させている実態を如実に指摘しています。

大障教は、府労組連大阪府関連労働組合連合会に結集し、生活改善につながる賃上げや長時間労働の解消など、教職員の要求の前進のために全力をあげる決意です。



経団連日本経済団体連合会(経団連)が総選挙の終了を待ちかねたように、政党の「政策評価」を発表しました。そこで示された経団連の要求には、投資の促進、「規制改革」、法人税改革など巨大企業に都合の良い項目が並んでいます。自民・公明の与党が、消費税の10%への増税、法人税減税・原発再稼働などを推進していることを、成果を上げており、高く評価できると持ち上げ、与党への献金集中を会員企業に呼びかけているのです。

営利を目的とする企業が政党に献金するのは「見返り」を求めるためで、これまで度々汚職や疑惑の温床となりました。政治家個人への献金を制限するなどの対策がとられてきましたが、結局ほとんど効果はありませんでした。しかし経団連は、「民主政治を維持していくためには相応のコストが不可欠」とか、「企業の社会貢献の一環」などと、あれこれ理由をつけて献金のあつせんを続けています。

そもそも、大企業の経済力は、消費者や労働者が利益を生み出したからこそ蓄えることができたものです。その金の力に物を言わせて政治を動かすなど、国民の政治参加を妨げ、民主政治を壊すものです。自らの身勝手な要求を通すために献金を行い、その見返りを求めておきながら、「社会貢献」を口にする資格はありません。

自民・公明の与党はもろろん、身を切る改革」を掲げている維新の会などは、国民の税金で賄った政党助成金まで受け取っています。国の財政が厳しいことを口実に、国民に新たな負担を求める考えを変えないつもりなら、企業・団体献金を禁止し、政党助成金も廃止しなければなりません。

# 今年もベテランの先生に感動！

ブロック別  
学習会  
シリーズ

## 5回目となった北河内分会合同宿泊教研

### 北河内ブロック学習会

### 新しく2人が組合加入

今年も北河内の5つの分会(交野支援学校、四條畷校、寝屋川支援学校、枚方支援学校、守口支援学校)が夏季休業中に集まり、ベテランの先生からたくさん思いのつまった話を聞きました。8月4日・5日の2日間で青年16人を含む38人が参加しました。また、寝屋川支援分会ではこの教研を機会に2人が組合加入を決意しました。

#### 1日目 学習会 「37年間を振り返って」 枚方支援学校分会 尾崎聡美先生

まずオープニングで、ニユージランドのたたかいの歌による「団結おどり」(初任のころの青年部の集まりで踊った)から楽しくスタートしました。

尾崎先生は高校時代、障害のある子どもとの出会いから大学で障害児教育を学び、寝屋川養護学校へ赴任されました。赴任当時は、毎回「何しようか」というのびのびした時代でしたが、やがて「過大・過密」へ、運動会も分離開催へと変わっていったそうです。そこで、2回の流産を経験され、今まで失敗したことのない人生の中で精神的ダメージを受けられました。でも、その後2人のお子さんが生れ、そこはさらに「2勝2敗でした」と表現されました。当時も今と同じように20人ほど初任がいた時代だそうで、

スペシャルコーナー「あなたに託す教材あれこれ」よろしかつたら現場でご活用ください」

町田幾枝さん

次のコーナーでは、昨

まで交野支援分会におられ

た町田幾枝さんから、たく

さんの楽器や着ぐるみ、手

作り教材など貴重な教材を紹介していただきました。子どもに合わせて作ったり、旅行などに行かれた時も常に授業に使えるものを探さ

期からすぐ使いたい！」と、オークションのようにして教材を各分会で分け合い、みな素敵なお土産ができうれしそつでした。

れていたそうで、ご夫婦で人生かけて集められた、あまりのたくさん教材に感動しました。この貴重な財産が若い方たちにつなげら

れてよかったです。そして、その後参加者が希望の教材を持ち帰れると

欲しい教材をゲットして満面の笑顔！

る「団結おどり」(初任のころの青年部の集まりで踊った)から楽しくスタートしました。

現在枚方支援でも無理をされている方が多く、「妊婦に

とって厳しい職場なのは同じであり、いい職場にするため仲間とがんばろう」と話されました。育児は優しいご主人やご両親に助けられて、分会、九条の会、執行委員の役目をこなしながら、仕事だけでなく、茶道、陶芸、合唱など趣味もそれぞれ極められました。「からだに資本、元気に働けたらだかお風呂、筋活、梅お茶・・・と、今後も定年女子として楽しめるそつです。

尾崎先生の話を聞き、あベテランからは「明るく

ちにとつて、力強いエールに聞こえたと思う。2度も流産するということは大変つらく、そのつらさの上さまさまな女性の権利を勝ち取っていったことも、若い人たちに心にとめていただきたいと思いました」というメッセージがありました。

初任は底辺校と呼ばれる高校に赴任されましたが、仲間と力を合わせて関わる中で、子どもたちは徐々にねじれがほどけ、本来の姿が見られるようになったそ

うです。やがて、「養護学校は教育の原点である」という声を聞いて養護学校を希望し、寝屋川養護学校に転勤されました。子どもたちの笑顔が素敵でかわいいと接してこられました。ある時、自分の体調が悪いのを子どもに見透かされ、「自分自身が心身ともによい状態ではないければいけない」と痛感したそつです。そして、授業で楽しんでる子どもを見て、「身体を動かすことは楽しいこと」という原点を思い出させてもらった、と語られました。

授業に対しては、常に教材に使えるものはないかと最後に、「自分の指導を、直



恒例のバーベキュー

(枚方支援学校分会 佐々木 起美子)